

## 「ミズクラゲとマミズクラゲ ～海と池のクラゲたち～」



独立行政法人 水産大学校  
生物生産学科 教授 上野俊士郎

海にばかりばかりと漂う白いクラゲは皆さんよくご存知ですね。傘が開いたり閉じたりしているので、「ああ～ 生きてるんだな～」って思いますが、あんな風に波間を漂いながらよく生活をしているもの

なあと思ったり、時にうらやましく思ったりでは。

もっともふつうにいる海のクラゲはミズクラゲです。「海月」や「水母」と漢字で書かれたり、英語では“moon jellyfish”とよばれたりします。

ところで、みなさんは淡水クラゲをご存知ですか。マミズクラゲという大きくても2cm くらいのクラゲが夏から秋の池や湖に時にたくさん出現します。現在下関市内の農業用溜池にも出現しています。

このマミズクラゲは身近な溜池や防火用水などに短期間に多数出現しますが、意外に知られてない淡水クラゲなのです。

今回のオープン・ラボでは、これらふたつの実に身近な海と池に生活するクラゲの体構造、生態や生活史などについて紹介します。今までなんとなく見ていたミズクラゲも、実に巧みな生残戦略をもって厳しい環境の沿岸域で生活していることを理解して頂ければ、ありがたいです。そして、海よりももっと環境が激変する溜池などに生活するマミズクラゲの「驚異の生態と生活史」に触れていただければ、うれしく思います。

